

エッ、そうなの?! 事業仕分けの真相

財務省が仕分け作業を行い、仕分け人はパフォーマンスの演者

第1回目の事業仕分けで「事業仕分け作業のマニュアル」の存在が明らかになっています。このマニュアルの作成には財務省の影がちらついています。

仕分け人はこのマニュアルに沿って国民へパフォーマンスしているだけです。マニュアルの存在を伏せたいのは「政治主導」を謳っていたのに官僚に頼っているからです。



事業仕分けで使う机、購入費は1362万円!!

第2回目の事業仕分けでは「ブーメラン型」の変わった机が使用されています。「スタッフ同士のコミュニケーションがとりやすい」という理由で新規購入されています。

事業仕分けのために16万6215円の椅子と机のセットを計82セット購入しています。合計1362万9630円です。

事業仕分けを行うためにこれだけの費用をかけるのは本末転倒です。



正確性を欠く仕分け内容

第1回目の事業仕分けで医療用漢方製剤の健康保険適用除外の提案が出ました。これは日本東洋医学会など4団体が反対し、反対の電子署名が行われました。2009年12月1日には約27万人分の署名が集まり、最終的に924,808名の署名が集まりました。

結果として漢方薬は健康保険継続が決定しました。医師の7割以上が漢方薬を使用して、国民の健康に寄与してきた漢方薬をパフォーマンスのために保険適用外にしようとしたことは非常に問題です。

また、漢方薬の事業仕分けを「デマ」といって事態を収束させようとする人たちも出てきました。しかし、漢方薬の健康保険継続が決定すると全員黙り込むという、意図的に混乱を狙う人たちがいたのも事実です。

事業仕分けは国民が監視しないと、必要なものさえ予算やパフォーマンスのために仕分けされるのです。